

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は認知症を理解することを目的とした学習会を開催・参加しBS法とKJ法を用いて理念作りを行った。入居者やご家族様の思いを反映し、事業所の地域に根付いてという理念に基づき当施設の理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者と職員が参加し作り上げたものであり、理念を共有しそれを目標に日々取り組んでいる。毎日の申し送りの中や定期ミーティングの場を活用し、方針や取り組むべき目標を具体的に伝達している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に理念の説明をし、玄関に掲示している。訪れた人や入居者、誰もが目にすることができるようになっている。また、場合によっては分かり易く説明を行なっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の畑で収穫した野菜等を、入居者と職員が一緒におすそ分けするなどし、逆にいただいたこともあり、関係ができてきた。また、近隣を散歩する際には積極的に挨拶を行なっている。	○ 入居者・ご家族の了承を得て、散髪時には今まで利用していた移動美容室ではなく、できるだけ近隣の美容室を尋ねて行きつけの店を作るなど、地域の人々との馴染みの関係を構築する支援を行なう。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の教育機関との行事や自治会との納涼祭の開催等を実施し、地元の人々と交流することに努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	学習会等に参加した職員から資料を集め、職員全員が学べるようにユニットに資料を設置。伝達研修が遅れているため、早期開催に努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は内容に関して十分な知識を持っている管理者が行い、入居者やご家族の不安や疑問点をうかがっている。一番の不安は入院・退所時のことであり、入居者やご家族が安心して頂けるよう十分な説明を行い、了承を頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に認知症ケアの研修に参加し知識の習得に努め、日頃から入居者の思いに気付けるケアを心がけ、カンファレンスや面会時、運営推進会議などで意見や改善状況を報告している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各入居者に担当職員を配置し、暮らしぶりや健康状態、金銭や消耗品管理についてご家族へ電話や面会時に連絡・報告をさせて頂いている。また、写真つきの広報誌を定期的に作成しご家族へ郵送することで、より施設での取り組みや入居者の暮らしぶりが分かり易くなるよう工夫している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時に情報交換なども含めて家族への配慮に努め、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。ご家族とのカンファレンスや運営推進会議等で意見や要望を伺い、職員へ伝達し、施設運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接を年に2回行なっているほか、親睦会、関連施設との交流会を通して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、月に一度センター長、管理者、ユニットリーダー等が行なう会議においても現場の意見を聞く機会として活用されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	同敷地内の指定認知症対応型通所介護との連携を図り、職員の配置や業務に関しての一体化を目指し取り組んでいる。現在のところ、入居者やご家族の状況や要望に対して、柔軟にローテーションを組み対応が出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同敷地内の指定認知症対応型通所介護との連携を図り、職員の配置や業務に関しての一体化を目指し取り組んでいる。その為、変わる場合でも他の職員がフォローできる。また、新人職員など急にグループホーム業務に入らず、通所との兼務の形で少しずつ入るので、入居者の混乱はない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課・能力考課制度を導入しており、職員1人ひとりの苦手、得意分野、ホームでの役割を把握し、目標設定及び管理をしている。また、職員の段階や役割に応じ、研修内容を検討し参加の奨励を行なっている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所における教育システムにより段階別の新人・現任教育・学習会や施設外研修を積極的に行ったり、地域の同業者とは見学や施設外研修の際に積極的に意見交換をするなどして、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。また、小規模多機能施設の内覧会を地域の同業者向けに行い、市で初めてのサービスへの取り組みについて意見交換を行なった。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人事考課の考課者訓練において「効果的な面接技法」や「コーチング」などの研修を積極的に開催して職員のモチベーション低下に配慮し、メンタルケアの指導も含めて事業所全体でストレスの軽減、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、関連施設との交流会では「働きやすい職場とは」をテーマとし、職員全体で取り組むよう意識付けをしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理による人材育成に努め、人事考課に反映させている。介護課業表を設置し、自己決定によって目標を設定するため自主的に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の高齢者1人ひとりに合わせたコミュニケーションの技法を使い分け、困っていること、不安なこと、求めていること等を理解できるよう努めている。声かけは前方から視線を合わせたり、入居者のペースに合わせてじっくりと聴く姿勢を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込みの面会時から積極的に職員から話しかけ、信頼関係が築けるよう働きかけている。窓口を管理者や担当者を中心として家族の意見や要望をしっかりと受け止めて検討している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば、相談員や管理者が訪問し、本人、家族との直接面接・調査を行い、職員全員でホームでの生活が適しているかどうかなどの話し合いをしている。利用にあたっては、十分検討した上で決定している。場合によっては介護保険の申請、ケアマネージャーの介入や他のサービスの紹介なども行なっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前には同敷地内の認知症対応型通所介護事業所を使用している場合など、意識的にグループホームに行ってもらったり、ご家族と一緒に見学や説明なども積極的に実施している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前の情報を収集し支援することはもちろんだが、共に暮らしていく中で、本人に教えてもらう事や学ぶ事がとても多くある。その中で支ええもらったり、互いに支えあったりとの関係が出来ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスの時などに、家族から本人の生活歴や生活、好んでいること等を情報収集しながら家族の思いを直接聞き出し、思いを受けとめ共感することで家族との信頼関係を築き、共に入居者を支えていく関係性づくりに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係と、家族と本人の双方の思いを理解した上で、より良い関係が築いていけるようにきっかけを作ったり、家族に認知症についての説明や共に考えていけるようにアプローチをしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が近くの入居者は、職員と一緒に庭の草取りに出掛けたり、同の敷地内の指定認知症対応型通所介護をご利用の古くからの友人に会いに行ったり、居室に招いてお茶を飲んだりできるよう支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個々の正確や社交性を踏まえ、入居者同士の組み合わせや食卓の位置などを工夫し、気の合う仲間が出来るよう手伝うなど関係を深める支援をしている。共通の趣味や嗜好なども探ってきっかけを作り、入居者同士が楽しみなどを分かり合える関係となれるよう支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者がホームに適切でなく退居する場合、本人や家族が困らないように関連施設との連携を図り、相談・連絡・送迎など最期まで責任を持ち実施している。また、その他の理由を含む退居後も、訪問や電話での連絡をとるなどし、本人や家族との関係を継続させている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の個々のリズム、生活歴を把握した上で1人ひとりに接している。自己決定や選択の機会を増やし、本人のペースに合わせ接している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートパックを活用した情報収集とアセスメントを行い、普段の会話や日常の活動を意識的に行なっている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートパックを活用して職員全員が入居者の出来る事、出来ないことを見極めている。手工芸、畑仕事、台所仕事、洗濯干し等の作業は一緒に行なうか見守る程度にし、出来たことで自信につなげるよう支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がどうしたいのか、どうなりたいのかを一番に考え、本人や家族を交えて話し合いを実施している。また、その思いや意見をアセスメントし、認知症に対する取り組みを交えて介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況に変化があった場合は、介護計画の期間内であっても、ご家族や職員間で話し合いの場を持ち、十分な検討を行なった上で新たな介護計画を作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録の他に、職員間での情報共有を目的として連絡ノートを使用している。連絡ノートにはちょっとした気づき等も記載し、それをもとに話し合いの場に活用しケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内の指定認知症対応型通所介護事業との連携を図り、逆デイ等を実施しており日課として生活にメリハリを生む効果がみられる。また、職員も顔なじみの関係が出来ており、混乱などはあまりみられていない。また、ターミナルケアでは家族の希望する時間の面会や居室への泊り込みにも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には地区の民生委員が参加して下さったり、地域の自治会や山車の会の方との交流も図っている。また、消防訓練時は消防署に連絡し、協力いただいている。ボランティアに関しては、地域の申し出のあった方を積極的に受け入れをしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の心身の状態の変化や身の回りの環境の変化などがあった時やご希望がある時には、ご家族ともよく話し合い、市内の特別擁護老人ホームの相談員に相談するなどし、円滑なサービス移行に努めている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症相談窓口へ連絡があった方や入居希望で見学を受け入れた方の中から必要な方に関しては、地域包括支援センターの職員へ連絡し協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人が別の住居に移り住む際には、相談員・管理者・家族・主治医等の本人に関わる関係者で十分な話し合いや情報交換をしたうえで行なっている。退居、移住の際には連絡、相談、調整、送迎等を責任を持って最後まで行なっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員の入職時には、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。記録物や個人情報の保管場所を定め、使い終えたら必ず元の場所へ保管するように、職員1人ひとりが意識している。また、個人情報の取り扱いについて説明を行い、十分な理解をもって取り扱っている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人の思いや希望をあらわせるように、話しかけるときは前方より1人ひとりの目線に合わせて、ゆっくりとしたペースで話しかけるようにすることを徹底している。また、自分で選んだり決定することが出来るよう支援し、一つひとつの事柄を入居者が納得した上で出来るように支援している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1人ひとりのアセスメントをもとに、したいことや出来る事を聴き出し、それが叶うように支援している。自分の思いをうまく表現できない入居者に対してもアセスメントをもとに、本人の嗜好や今まで行なってきた事柄から良い表情をされているときの事柄を行なってみたりし、再度アセスメントを実施している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	好きなものや馴染みの衣類を選ぶ事が出来ない入居者に対しては、好きな色や形などを考慮し、入居者と一緒に衣服を選び、おしゃれを楽しめるよう支援している。また、家族から了承を得て、希望のある方に関しては近隣の理美容室へ通えるよう努めている。他にも訪問理美容や、ご家族による散髪などそれぞれに合った形で整容できるよう支援している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の外に出たいという思いをいち早く察知し、外に出て行こうとされるときは後ろからそっとなついて行き話しをしながら一緒に帰って来る等している。また、普段から自由に外に出られるように常に中庭を開放し、夕方の帰りたいたいという思いを軽減するために日中逆デイにも取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等の作業時に入居者の動きが把握できるよう、食堂で行なっている。入居者の所在を常に職員同士声を掛け合い確認しながら、安全に生活を送れるようにしている。また、居室のドアは入居者のプライバシーに配慮しながら所在の有無が確認できるように一部すりガラスになっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や危険物に関しては、利用者の目や手の届かない所や施錠できる場所においている。石鹼など異食の危険性があるものに関しては、片付けることで入居者自身のできることを減らしてしまう恐れがあるため、異食の危険性を取り除いた上で、ネットに入れて蛇口につるすなど工夫をして設置している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスク管理の研修や学習会に参加し知識修得に努めている。事故報告により、全ての事故において発生状況内容分析、今後の対策を記入し、全職員が把握できるようにしている。また、ファイルした事故報告書とヒヤリハットに関して、月に一度定例会議で事例検討を行ない、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時、事故発生時に対応できるように、対応方法や技術を学ぶ機会を定期的に設けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の総合訓練を実施。入居者も交えて実施している。	○	地元の消防団と地域住民も交えた訓練を行なっていけるよう、今後連携をとっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	状態に応じて予測されるリスクの説明や、カンファレンスを開催し、こまめに家族と話し合いを持ち対応している。拘束や鍵かけをせず見守りを重視しながら抑圧感のない暮らしが出来るよう支援している。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	入居者自身からの訴えの他にも、表情や顔色、しぐさなどから、体調変化を早期発見できるよう、職員全員が意識し、注意をしている。気付いた際にはその状態と対応を個別の記録及び回覧板に記入し、不安や心配はその都度看護師へ報告・相談をしている。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	職員がすぐに見ることができるよう薬情を冷蔵庫の横に設置するほか、新しい薬が処方されたり職員からの質問などがあつた場合には、薬の内容や副作用について十分に理解できるように、看護師が薬に関する資料を作成し、ファイリングし、職員全員が読むことができるように保管している。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	日常的な散歩や家事等による運動の他、繊維質を多く含む食品や乳製品の提供を心がけ、できる限り自然排便を促す働きかけをしている。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	1人ひとりの出来る事出来ないことを把握した上で、夕食後には歯磨きが出来よう促し、夜間は歯磨き洗剤での洗浄を毎日行っている。また、必要に応じて歯科医師による往診を受けることができるように支援している。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	入居者の体調によって食事量の低下がみられるときはチェック表を作成し、1日を通して摂取量のバランスが摂れるよう注意している。必要に応じて水分チェック表も用い、摂取量が少ないときには促したり、摂りやすいようにゼリーなどを提供したりして工夫している。また定期的に栄養士にも献立を見てもらっている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員・入居者ともにインフルエンザの予防接種を行ったり、外出後の手洗いうがいを行なえるよう支援している。感染委員会の設置の他、研修会にも参加するなどして、知識の習得と予防・早期発見・対応ができるよう取り組んでいる。入居前に診療情報として感染症の有無について検査する事の同意を家族から得ている。感染予防に十分努めているが、感染が出た場合には、同グループ内の施設に連絡票を回覧し、感染の拡大防止に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設内の清潔維持の為の実施方法を職員全員で考え、実施している。布巾やまな板は毎日夕食後に漂白剤の入ったたらいで入居者の手の届かないところに保管している。また、週一回、買い物前などに食材をチェックし、冷蔵庫の掃除を行ってから買い足したものをしまうよう取り組んでいる。		

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花や季節の飾りをつけたり、中庭に草花やプランターで育てられる野菜をうえるなどして家庭的な雰囲気を作っている。また、施設を抜けて散歩をされる近所の方々も足を止めて花を見たり、入居者や職員と雑談されることもある。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近代的なものではなく、入居者にとってなじみのある家具や小物を配置している。新品のものではなく、極力少し古い感じのものをリサイクルショップなどを利用してそろえて配置している。夏の暑い時期は天窓から入る光を調節するため、昔から馴染みのあるすだれを利用するなど工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の間にアコーディオンカーテンを設置し、空間を仕切れるようにしている。中庭にもベンチや喫煙所を設けて入居者が自由に居場所を選べるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

どんぐり荘はさまざまな人々の存在がひとつの社会を構成していることを踏まえ、認知症になっても社会の一員として暮らしていける環境づくりを目指して、様々な取り組みを行なっています。中でも学童保育においては、一番必要とされ輝いていた子育て時代を考え、子供が自然に出入りすることで、かつての家庭での役割を思い出したり、出来る事が増え周辺症状の改善やその人らしさを引き出す効果をもたらし、1つの家庭としての役割を果たすことで、継続的な生活の安定とQOLの向上を図ることを目的として取り組みを続けています。併設の認知症対応型通所介護事業所との連携を図り、グループホームの入居者がデイサービスへ通う「逆デイ」など、その機能をグループホームの入居者の生活支援へ活用していく取り組みも行なっています。活動内容は、定期的にご家族様に送る「どんぐりたより」や運営推進会議の中で報告をさせて頂いており、この様な活動に取り組んでいながら地域の方々にご理解を頂き地域共生に向けて取り組んでいます。